

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2024年8月1日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	法学部
留学(渡航)した時の学年	3年生
帰国年月日	2024年7月4日
明治大学卒業予定年月	2025年9月
留学先大学について	
留学先国	台湾
留学先大学	国立政治大学(日本語名) 國立政治大學(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	中国語(台湾華語)/中国語(台湾華語)、英語
留学期間	2023年9月～2024年7月
留学先大学で在籍した学年	3年生
留学先の所属学部等	<input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 社会学部 現地言語での名称: 社會學系 <input type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input checked="" type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 9 月中旬～1 月中旬 2 学期: 2 月中旬～6 月下旬 3 学期: ~ 4 学期: ~
学生数	1万6000人
創立年	1927年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (台湾ドル)	日本円	備考
授業料	0	0円	交換留学のため
宿舍費	22000	110000 円	1ドル=5 円で計算
食費	75000	370000 円	
図書費	0	0円	
学用品費	1000	5000 円	教材台
携帯・インターネット費	3000	15000 円	中華電信
現地交通費	50000	25000 円	(<input checked="" type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費		円	不明
被服費	10000	50000 円	思ったよりも買ってしまった
医療費	0	0円	
保険費		110000 円	形態: 明治大学の保険
渡航旅費		1000000 円	JAL
ビザ申請費		10100 円	
雑費		円	不明
その他		円	
その他		円	
合計	161,000	715,100 円	

渡航関連

渡航経路
往路 出発地: 東京(羽田) 目的地: 台北(松山) 経由地: 復路 出発地: 台北(松山) 目的地: 東京(羽田) 経由地:
渡航費用
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社: JAL 料金: 5.5 万 復路 航空会社: JAL 料金: 6 万 ∴ 合計: 11.5 万
航空券購入方法
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名: JAL の HP) <input type="checkbox"/> その他()
滞在形態関連
1) 種類(留学中の滞在先)(例: アパート、大学の宿舍等)
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: 自強 9 舎) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ
2) 部屋の形態
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 4 人)
3) 共有部分
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン(<input type="checkbox"/> 自炊可 <input checked="" type="checkbox"/> 自炊不可)
4) 住居を探した方法:
留学先からメールが来て申請
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)
留学生専用の ihouse と現地学生が住む自強舎を選ぶことができます。ihouse はとても人気なので倍率が高く落ちてしまいました。第二希望を自強舎に選択していたので自強舎に入居できました。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

なし

あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

なし

あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェではWIFI接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮や学校内ではWIFIが使用できる。台湾のsimは使用無制限で、通信も安定していたので困ったことはなかった。使っていた携帯会社は中華電信です。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開けて日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

玉山銀行で口座を開けました。大学側から郵局で開設することをおすすめされますが、日本円から送金できないのでお勧めしません。玉山銀行はパスポート、ARCのみで開設でき、印鑑も必要なかったです。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

特にありません。ですが台湾に売っている日本の製品は比較的高めなので、費用を気にするようであれば日本の日曜製品や衣服を持っていくことをおすすめします。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
19 単位	<input type="checkbox"/> まだ不明単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input checked="" type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった: 一学期上限 25 単位。一部交換生が受けられない授業もある。	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
戦後台湾史與國際關係	戦後台湾史と国際関係
科目設置学部・研究科	台史所
履修期間	前期
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	12 回(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 100 分が 1 回
担当教授	前田直樹
授業内容	戦後台湾はどのように歩んできたのかを日本人の先生が講義をする。
試験・課題等	授業後に毎週感想や疑問点を提出する。期末テストがある。(持ち込み可)
感想を自由記入	台湾について何も知識がなかったので受けました。日本人の先生で簡単なと思っていたのですが、内容自体もとても難しく、他の英語や中国語の授業よりも内容自体の難易度は高いと感じました。ただその分、自分で講義の内容を復習したり、そのテーマについて深く考える機会が多く充実した授業でした。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
幸福學	幸福学
科目設置学部・研究科	教務處通識教育中心
履修期間	前期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	18回(実際は15くらいだった)(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が1回
担当教授	Nadeau Randall Laird
授業内容	社会学、心理学、哲学の視点から自分の幸福とは何かについて学ぶ授業です。基本毎回ワークシートが配られてそれを埋めていく方式です。たまにグループワークやディスカッションがあります。前期ということもあり、英語での授業でしたが台湾人学生がほとんどのように感じました。先生は以前立教大学で講義をしていた経験もあり、授業の中で日本について話してくれることも多くおもしろかったです。
試験・課題等	成績は毎回のワークシートの提出、毎週の課題、期末テスト。期末テストは先週に問題をすべて教えてくれるので対策をすれば満点を取ることができると思います。
感想を自由記入	英語のネイティブの先生の授業を受けるのが初めてだったので緊張していたが、ゆっくりの英語で話してくれていたのですべて理解することができました。英語力にあまり自信がなくても講義自体はついていくことができると思います。隣の人と話す機会も多く、授業を通して友人がたくさんできました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
日本外交政策	日本外交政策
科目設置学部・研究科	外交三
履修期間	前期
単位数	2
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	18回(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に100分が1回
担当教授	劉徳海
授業内容	台湾人の先生が英語で日本の外交政策について学ぶ。前半は外交の歴史を学び、中間でグループ発表がある。内容は日本とグループで選んだ地域の関係について。後半は近年の日本の外交政策について学ぶ。終盤では個人発表がある。20分くらい。(長すぎてどうなるかと思ったけど、何とかかなりましたー！！)
試験・課題等	グループ発表、個人発表、中間テスト、期末レポート
感想を自由記入	台湾人の話す英語は少し独特なのでなれるまでに少し時間がかかった。法学部ということもあり、日本の外交についての知識はほぼなかったの理解を深めるにはもっと予習しておけばよかったかなと少し後悔しています。発表系が多く、英語には全く自信がなかったのですが何とかかなりました。授業は台湾人と留学生が半々くらいいました。日本人も数人いました。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
華語-特別班應用華語		華語-特別班應用華語	
科目設置学部・研究科	不明		
履修期間	通年		
単位数	6		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	18回 X 2(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が1回		
担当教授	陳恵芳		
授業内容	教材を用いて文法の勉強や会話の練習ができる。交換留学生や正規留学の大学院生と一緒に受ける。私は週に一回のパートタイムを選びましたが、もし語学をメインで勉強したいのであれば週に4回のコースもあります。8月にリスニングとリーディングの試験を受けてクラス分けがされて、その後口頭試験のレベルでクラスが変わることもあるそうです。私はレベル4のクラスに所属していました。(1が簡単で5が難しい)1~4は教材メインの勉強で、5になると熟語の勉強や政治などの記事を見るような勉強法になると聞きました。		
試験・課題等	毎週の課題と中間、期末試験。		
感想を自由記入	15人ほどのクラスで文法や会話の授業があります。先生は中国語で中国語の説明をしてくれます。基本この授業は勝手にプログラムに組み込まれていますが、OICに連絡をすれば、すでに中国語レベルが高い人は授業を取らないこともできます。私の周りでもこの授業を選択せずに別の授業を受けている人もいました。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)	
高階華語寫作		高級華語作文	
科目設置学部・研究科	不明		
履修期間	後期		
単位数	3		
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	16回(チュートリアル、講義形式等)		
授業時間数	1週間に150分が1回		
担当教授			
授業内容	前半では文章の書き方や、その用法について学ぶ。後半からは比較的長めの文章を読む。		
試験・課題等	毎週授業後に作文の宿題、中間テストと期末テストでは先生からメールでお題が送られてきてそれについて2時間程度で作文を書く。		
感想を自由記入	毎週の課題はとても重く感じましたが、この授業のおかげで思っていることを中国語にアウトプットする力はついたと思います。先生が説明してくるときはとても面白くてわかりやすく良かったです。		

履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
近代中国婦女史	近代中国女性史
科目設置学部・研究科	歴史系
履修期間	後期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義、討論(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が1回
担当教授	許慧琦
授業内容	1900-1940年代の中国女性の歴史
試験・課題等	毎週3つの論文を読み討論の準備。テストなし。中間口頭発表と期末レポート。
感想を自由記入	この授業の内容に本当に興味がある人にしかおすすめてできません。毎週レポートを3強み、それに関する史料を探し、ディスカッションの準備をすることは大変でした。ただ先生は中国女性史の研究をしている先生で、ゲストスピーカーでも有名な研究者の方が登壇してくれます。内容は事前に論文を読んでいるので理解度はほぼ100%です!!ここまで毎週の課題が重いということもあり、成績の判断基準は毎週の出席と、中国女性史に関する学術書を選びその内容の口頭発表、そして自分でテーマを決めて授業のシラバスを作るレポートという軽めのものでした! 何度もこの授業の受講をやめようかと思ってしまいましたが自分の興味があって選んだ授業を途中で投げ出さなかったこと、一緒に受けていた現地学生が優しかったこと、先生が頑張れと背中を押してくれたことで何とか最終的には単位を貰うことができました!この経験を通して自分の言語力や諦めない力をつけることができたなと感じています。

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

就職 進学 未定 その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

未定

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。) 就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の前年	1月～3月	台湾留学に興味を持ち始める。
	4月～7月	HSKの勉強を本気で始め、4級を取得。
	8月～9月	何もしていない。
	10月～12月	交換留学申請。
留学開始年	1月～3月	何もしていない。
	4月～7月	休学しアルバイトで自己資金を貯め始める。HSK5級を(ギリギリ)取得。
	8月～9月	ビザ申請、航空券予約。9月より留学開始。
	10月～12月	最初は中国語が話せないことに悩むも次第に話せるように。
留学/帰国年	1月～3月	前期の試験で苦勞するも何とかすべての単位を取得。冬休みはたくさんの台湾人学生と旅行に行く。
	4月～7月	台湾人と普通に日常会話ができるようになった。TOCFLやTOEICを現地で受験。帰国。
	8月～9月	
	10月～12月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

台湾を留学先に選ぶ明治の学生はとて少ないです。ですが、台湾に来て感じたことは、①英語圏からくる留学生が多いこと②その留学生は中国語を話せない人が多く、彼らとコミュニケーションをとるには英語が必要になること③英語で開講される授業が非常に多いこと。といった英語を使う機会も非常に多いということです。台湾も円安の影響は受けていますが、欧米ほどではありません。もし留学を経済的な面で諦めている方がいらっしゃるのであれば、台湾で英語留学という選択肢もありだと思います。私の周りの日本人交換留学生でもそういった形で来ている人もいました。

他の大学はわかりませんが、政治大学は1つの学部には所属するものの興味のある授業は他学部でも選択することができる制度なので非常にお勧めできます。環境は近くに MRT の駅はないですが、バスが発達しているので交通面で困ったと感じたことは一度もありませんでした。また、政治大学にはバディー制度があり、日本に興味のある現地学生が留学前のサポートしてくれることも非常に良かったです。

語学力に関してはあったに越したことはないですが、最重要ではないと思います。どんな環境でも楽しめるマインドや、何事にも興味があることにチャレンジしてみるマインドの方が大切です！（その結果、自然と自分の語学力の向上にもつながると思います）私は台湾に行くまで中国語の勉強はあまり真剣にしていませんでした。台湾に来てから、自分の言いたいことがなかなか相手に通じなかったり、みんなの話していることを聞き取れないという現実に直面しました。ですが、台湾で本当に大切な友人ができ、彼女と毎日のおしゃべりをしたり、言語交換をしたり、ご飯を食べに行く仲間になり、それを通して自分の気づかない間に語学力が飛躍的に向上しました。ほかにも積極的にイベントやサークルに参加したり、友達に積極的にご飯に行こうと誘ってみたりして自ら交流の場を広げることを意識していました。その結果、後期では中国語で開講される授業を現地学生と受けたり、台湾人の友達と中国語で冗談を言い合えるほどになり9月の自分では想像もつかなかったほど話せるようになりました。

留学を考えている皆さんは、海外生活への不安やそれまでの語学勉強や大学での勉強のストレスも大きいと思います。ですがそんな状況の自分すら楽しんでしまうことが自分の語学力や、さらなる自分の成長につながるのではなると信じています。この留学報告書が誰かの台湾留学の後押しになることができれば幸いです。